

(資料)

## 新潟県産バッタ目昆虫について

長島義介

A Note on the Orthoptera of Niigata Prefecture, Japan  
by  
Yoshisuke Nagashima

新潟県における直翅類（以下バッタ目）の調査は、他の昆虫調査に付随して古く（明治時代）から行われているが、大正時代に出版された「新潟県天産誌1925」の直翅類目録以降、新潟県のバッタ目を総括した昆虫目録はない。ただし、バッタ科（山崎・馬場・伊丹 1964）、コオロギ上科（大町 1966）、キリギリス科（長島 1983）など各科ごとの目録はある。しかしこれらの目録作成後、さらに記録追加された種や種名（学名、和名）の変更などがあり、県内のバッタ目昆虫相を研究する上ではなほ不便を感じてきた。ここでは、新たに新潟県産バッタ目の昆虫リストを作成し、分布上注目される種の知見に触れてみたい。現在、わが国のバッタ目昆虫は再分類の時期にあり、これまで用いられてきた種名の再検討がなされているが、本リストに用いた種名は、主として直翅類研究グループ（1983）と加納（1983-1987）に準じた。なおリストの和名に※印のあるものは、筆者が未だ採集確認していないが、既知文献に記載されている種である。

## 新潟県産バッタ目 (ORTHOPTERA) 目録

A List of Orthoptera from Niigata Prefecture

## I. ORTHOPTERA バッタ目

## ENSIFERA キリギリス亜目

## Fam. Gryllacrididae コロギス科

- |   |          |
|---|----------|
| 1. <i>Prosopogryllacris japonica</i> (MATSUMURA et SHIRAKI) | コロギス     |
| 2. <i>Nippancistroger testaceus</i> (MATSUMURA et SHIRAKI)  | ハネナシコロギス |

## Fam. Rhaphidophoridae カマドウマ科

- |  |          |
|--|----------|
| 3. <i>Diestrammena apicalis</i> BRUNNER v. W.  | カマドウマ    |
| 4. <i>Diestrammena japonica</i> BLATCHLEY      | マダラカマドウマ |
| 5. <i>Tachycines elegantissimus</i> (GRIFFINI) | コノシタウマ   |
| 6. <i>Tachycines horazumi</i> (FURUKAWA)       | ホラズミウマ※  |
| 7. <i>Tachycines asynamorus</i> ADELUNG        | クラズミウマ   |
| 8. <i>Anoplophilus acuticercus</i> KARNY       | クチキウマ    |

- Fam. **Phaneropteridae** ツユムシ科
9. *Phanoptera falcata* (PODA) ツユムシ  
 10. *Phanoptera nigroantennata* BRUNNER v. W. アシグロツユムシ  
 11. *Ducetia japonica* (THUNBERG) セスヅツユムシ  
 12. *Ducetia chinensis* (BRUNNER v. W.) エゾツユムシ  
 13. *Shirakisotima japonica* (MATSUMURA et SHIRAKI) ホソクビツユムシ  
 14. *Psyrana japonica* (SHIRAKI) ヘリグロツユムシ※  
 15. *Holochlora japonica* BRUNNER v. W. サトクダマキモドキ  
 16. *Holochlora longifissa* MATSUMURA et SHIRAKI ヤマクダマキモドキ
- Fam. **Meconematidae** ヒメツユムシ科
17. *Leptotera albicornis* (MOTSCHULSKY) ヒメツユムシ  
 18. *Xiphidiopsis suzukii* (MATSUMURA et SHIRAKI) ミドリササキリモドキ  
 19. *Cosmetura fenestrata* YAMASAKI コバネササキリモドキ  
 20. *Tettigoniopsis forcipicercus* YAMASAKI ヒメヤブキリモドキ  
 21. *Tettigoniopsis kongozanesis* KANO et KAWAKITA ヒトコブササキリモド
- Fam. **Mecopodidae** クツワムシ科
22. *Mecopoda nipponensis* (DE HAAN) クツワムシ※
- Fam. **Tettigoniidae** キリギリス科
23. *Metrioptera bonneti* (BOLIVAR) コバネヒメギス  
 24. *Metrioptera hime* FURUKAWA ヒメギス  
 25. *Metrioptera japonica* (BOLIVAR) イブキヒメギス  
 26. *Gampsocleis buergeri* (DE HAAN) キリギリス  
 27. *Tettigonia orientalis* UVAROV ヤブキリ
- Fam. **Conocephalidae** ササキリ科
28. *Hexacentrus japonicus* KARNY ウマオイムシ  
 29. *Euconocephalus thunbergi* (STÅL) クビキリギス  
 30. *Pseudorhynchus japonicus* SHIRAKI カヤキリ  
 31. *Homorocoryphus lineosus* (WALKER) クサキリ  
 32. *Homorocoryphus jezoensis* (MATSUMURA et SHIRAKI) ヒメクサキリ  
 33. *Homorocoryphus dubius* (REDTENBACHER) オオクサキリ  
 34. *Conocephalus chinensis* (REDTENBACHER) ウスイロササキリ  
 35. *Conocephalus japonicus* (REDTENBACHER) コバネササキリ  
 36. *Conocephalus maculatus* (LE GUILLOU) ホシササキリ  
 37. *Conocephalus gladius* (REDTENBACHER) オナガササキリ  
 38. *Conocephalus melas* (DE HAAN) ササキリ※  
 39. *Conocephalus* sp. カスミササキリ
- Fam. **Gryllotalpidae** ケラ科
40. *Gryllotalpa orientalis* BURMEISTER ケラ
- Fam. **Trigonidiidae** クサヒバリ科
41. *Paratrigonidium bifasciatum* (SHIRAKI) クサヒバリ  
 42. *Homoeoxipha lycoides* (WALKER) ヤマトヒバリ  
 43. *Trigonidium* sp. キアシクサヒバリモドキ

44. *Trigonidium cicindeloides* RAMBUR クロヒバリモドキ※  
 Fam. **Eneopteridae** マツムシ科
45. *Xenogryllus marmoratus* (DE HAAN) マツムシ  
 46. *Calyptotrypus hibinonis* (MATSUMURA) アオマツムシ※  
 47. *Euscirtus japonicus* SHIRAKI カヤコオロギ  
 Fam. **Myrmecophilidae** アリツカコオロギ科
48. *Myrmecophilus sapporensis* MATSUMURA アリツカコオロギ  
 Fam. **Gryllidae** コオロギ科
49. *Velarifictorus micado* (SAUSSURE) ツツレサセコオロギ  
 50. *Velarifictorus* sp. コガタコオロギ※  
 51. *Loxoblemmus doenitzi* STEIN ミツカドコオロギ  
 52. *Loxoblemmus aomoriensis* SHIRAKI タンボオカメコオロギ  
 53. *Loxoblemmus* sp. モリオカメコオロギ  
 54. *Loxoblemmus* sp. ハラオカメコオロギ  
 55. *Teleogryllus emma* (OHMACHI et MATSUMURA) エンマコオロギ  
 56. *Teleogryllus yezoemma* (OHMACHI et MATSUMURA) エゾエンマコオロギ  
 57. *Modicogryllus minor* SHIRAKI クマコオロギ  
 58. *Pteronemobius csikii* (BOLIVAR) ハマスズ  
 59. *Pteronemobius yezoensis* (SHIRAKI) エゾスズ  
 60. *Pteronemobius ohmachi* (SHIRAKI) ヤチスズ  
 61. *Dianemobius nigrofasciatus* (MATSUMURA) マダラスズ  
 62. *Dianemobius flavoantennalis* (SHIRAKI) ヒゲシロスズ  
 63. *Dianemobius mikado* (SHIRAKI) シバスズ  
 64. *Dianemobius furumagiensis* (OHMACHI et FURUKAWA) カワラスズ※  
 65. *Paraapteronemobius sazanami* FURUKAWA ナギサスズ  
 Fam. **Oecanthidae** カンタン科
66. *Oecanthus longicauda* MATSUMURA カンタン  
 67. *Oecanthus* sp. ヒロバネカンタン  
 Fam. **Phalangopsidae** スズムシ科
68. *Homoeogryllus japonicus* (DE HAAN) スズムシ  
 Fam. **Mogoplistidae** カネタタキ科
69. *Ornebius kanetataki* (MATSUMURA) カネタタキ  
 Fam. **Scleropteridae** クマスズムシ科
70. *Scleropterus* sp. クマスズムシ

## CAELIFERA バッタ亜目

- Fam. **Pyrgomorphidae** オンブバッタ科
1. *Atractomorpha lata* (MOTSCHULSKY) オンブバッタ  
 Fam. **Acrididae** バッタ科
2. *Acrida cinerea* (THUNBERG) ショウリョウバッタ  
 3. *Gonista bicolor* (DE HAAN) ショウリョウバッタモドキ

- |   |               |
|---|---------------|
| 4. <i>Locusta migratoria</i> (LINNAEUS)                 | トノサマバッタ       |
| 5. <i>Gastrimargus marmoratus</i> (THUNBERG)            | クルマバッタ        |
| 6. <i>Oedaleus infernalis</i> SAUSSURE                  | クルマバッタモドキ     |
| 7. <i>Aiolopus thalassinus tamulus</i> (FABRICIUS)      | マダラバッタ        |
| 8. <i>Aiolopus japonicus</i> (SHIRAKI)                  | ヤマトバッタ        |
| 9. <i>Celes skalozubovi akitanus</i> (SHIRAKI)          | アカハネバッタ       |
| 10. <i>Eusphingonotus japonicus</i> (SAUSSURE)          | カワラバッタ        |
| 11. <i>Trilophidia japonica</i> SAUSSURE                | イボバッタ         |
| 12. <i>Shirakiacris shiraki</i> (BOLIVER)               | セグロイナゴ        |
| 13. <i>Oxya yezoensis</i> SHIRAKI                       | コバネイナゴ        |
| 14. <i>Oxya japonica japonica</i> (THUNBERG)            | ハネナガイナゴ       |
| 15. <i>Patanga japonica</i> (BOLIVAR)                   | ツチイナゴ*        |
| 16. <i>Mecostethus alliaceus</i> (GERMAR)               | イナゴモドキ        |
| 17. <i>Mongolotettix japonicus japonicus</i> (BOLIVAR)  | ナキイナゴ         |
| 18. <i>Stethophyma magister</i> (REHN)                  | ツマグロイナゴモドキ    |
| 19. <i>Eirenephilus longipennis</i> (SHIRAKI)           | ハネナガフキバッタ     |
| 20. <i>Parapodisma mikado</i> (BOLIVAR)                 | ミカドフキバッタ      |
| 21. <i>Parapodisma subaptera</i> (HEBARD)               | アオフキバッタ       |
| 22. <i>parapodisma</i> sp.                              | ヤマトフキバッタ      |
| 23. <i>Primnoa hayachinensis</i> INOUE                  | ハヤチネフキバッタ     |
| 24. <i>Podisma</i> sp.                                  | クサツフキバッタ      |
| 25. <i>Podisma</i> sp.                                  | マキハタフキバッタ     |
| 26. <i>Chorthippus latipennis</i> (BOLIVAR)             | ヒロバネヒナバッタ     |
| 27. <i>Chorthippus brunneus</i> (THUNBERG)              | ヒナバッタ         |
| 28. <i>Chorthippus nipponianus</i> FURUKAWA             | タカネヒナバッタ      |
| 29. <i>Chorthippus supranimbus</i> YAMASAKI             | ホンシュウクモマヒナバッタ |
| 30. <i>Chorthippus supranimbus shiroumanus</i> YAMASAKI | シロウマミヤマヒナバッタ  |

Fam. **Tetrigidae** ヒシバッタ科

- |  |           |
|--|-----------|
| 33. <i>Tetrix</i> sp.                        | ヒシバッタ     |
| 36. <i>Tetrix</i> sp.                        | サドヒシバッタ   |
| 35. <i>Formosatettix larvatus</i> BEY-BIENKO | コバネヒシバッタ  |
| 32. <i>Euparatettix insularis</i> BEY-BIENKO | ハネナガヒシバッタ |
| 31. <i>Criotettix japonicu</i> (DE HAAN)     | トゲヒシバッタ   |
| 34. <i>Acrydium longulum</i> SHIRAKI         | オオヒシバッタ*  |

Fam. **Tridactylidae** ノミバッタ科

- |  |       |
|--|-------|
| 37. <i>Tridactylus japonicus</i> (DE HAAN) | ノミバッタ |
|--|-------|

以上、新潟県でこれまでに採集記録されたバッタ目の昆虫は、亜種や未同定の種を加えると110種前後になる。これらのうちササキリ、ツチイナゴ、ヘリグロツユムシなどについては再調査の必要がある。

## 分布上注目される種類

### 1. *Conocephalus* sp. カスミササキリ (仮名)

本種はササキリ類としては大型で雌の産卵管が上方へ湾曲するのが特徴。わが国で最初に採集されたのは新潟県で、当時小学校2年生であった長島満君が塩沢町清水で採集(1983.8.6. 1♀)した(図3)。しかし新潟県では、その後の調査においても未だ採集されない問題の種である。これと同時期、茨城県では井上尚武氏が稲敷郡美浦町で採集(1983.8.18. 3♀♀)し、本種の記録を報じた(1984)。茨城県では、その後ヨシ原に生息しているのが再確認され(井上1984)、成虫はヨシの葉を好んで食べ、茎に産卵するのが飼育で観察された(加納1984)。

### 2. *Homorocoryphus*属 (クサキリ類)

新潟県にはクサキリ、ヒメクサキリ、オオクサキリの3種が生息している。ヒメクサキリは寒冷地系の種で、中部以南では主として山地の草地に生息しているが、新潟県中央部では、磯山周辺の海岸草地にも生息する。クサキリは暖地系の種で、平野部の草地に広く分布している。新潟平野の中央部(西蒲原郡)における観察では、水田や学校のグラウンドの草地にクサキリが、山地に接した海岸部や山地の草地にはヒメクサキリが生息し両種の棲分けがみられる。クサキリの日本海側における北限は新潟県とみなされている(日浦1977)ので再確認の必要がある。クサキリやヒメクサキリに酷似し、体形が少し大きいオオクサキリ(図4)が巻町角田浜から新潟市有明大橋にいたる砂丘地のススキ草地に生息している。オオクサキリは現在茨城県大洗海岸、霞ヶ浦周辺、多摩川の一部、そして新潟県に局所的に分布していることが知られている。このことに関して井上(1989)は、関東平野と新潟県の一部に遺存的に隔離分布する稀な種であると述べると共に、現在の学名に疑念を抱いている。また松浦(1984)の鳴き声分析によれば、鳴き声の波形パターンから本種は多摩川産、霞ヶ浦産A、Bの3種類に区別できるとしている。

### 3. *Holochlora*属 (クダマキモドキ類)

本県にはサトクダマキモドキ(クダマキモドキ)とヤマクダマキモドキ(フトクダマキモドキ)の2種が生息する。これまでヤマクダマキモドキは離島では佐渡島(河北1979)、日本海側の本土では石川県・富山県・長野県が北限地とみなされてきた。またサトクダマキモドキも日本海側では富山県が北限地とみなされていた(徳本1980)。しかし、新潟県では大正時代から両種の記録(中村1925)があり、筆者は1979年北蒲原郡聖籠村山倉山口(砂丘地帯)でサトクダマキモドキの雄を採集して以来、新潟市街地(砂丘地)、西蒲原郡巻町市街地、平野部、砂丘地、佐渡島小木町海岸部で多数採集した。またヤマクダマキモドキは角田山や新発田市加治川村箱岩、三条市、五泉市の山地、群馬県法師温泉などで採集している。新潟県の中央部においては、両種の明瞭な棲分けが見られる。両種の日本海側における採集記録の北限は新潟県である。

### 4. *Podisma*. *Parapodisma*. *Prinnoa*属 (フキバッタ類)

新潟県の山地にはミカドフキバッタ(ミヤマフキバッタ)、ヤマトフキバッタ(トガリバナフキバッタ)、アオフキバッタ(コバナフキバッタ)、ハヤチネフキバッタ(マルオフキバッタ)、クサツフキバッタ(クサツゲフキバッタ)の5種が生息している。

これらのうち新潟県の山地で優占しているのはミカドフキバッタで、佐渡・粟島では本種のみが分布する。本土側では、海岸部から亜高山帯近くまで広く分布しているが、翅の形や翅の付き方、体長にかなり変異がみられる。

アオフキバッタは、現在のところ新潟県では湯沢町貝掛温泉の林縁でしか採集されていない。本種は三国峠を越えた群馬県側に広く分布しているため、三国峠越えに侵入してきたものと推測

されるが、現在のところそれを裏付ける証拠はない。

ヤマトフキバッタは、阿賀野川流域に沿った山間地と溪谷の出口にあたる地域に生息している。阿賀野川溪谷の出口北岸では安田町草水地区で採集されるが、それ以北の村杉温泉付近では採集されない。南岸では五泉市の咲花温泉から菅名岳の山麓沿い（小山田，大須郷，菅出，大蔵，不動堂）と村松町早出川（土淵），仙見川（川内，夏針）沿いの山間地に連続的に分布しているのを確認した。本種は恐らく福島県から阿賀野川沿いに侵入し，現在も分布域を広げているのではないかと推察される。

ハヤチネフキバッタとクサツフキバッタは亜高山性のフキバッタで，阿賀野川よりも北の山岳地亜高山帯（飯豊山地・朝日山地・東北地方の高山）にハヤチネフキバッタ（図7），阿賀野川以南の山岳地亜高山帯（越後山脈・三国山脈の1600m以上の高地）にはクサツフキバッタが分布している。クサツフキバッタ（図6）は翅がまったく無いフキバッタで，最初草津の白根山で1981年に発見（和田1984）された。その後筆者は長野県鳥甲山，苗場山，三国山，大源太山，平標山，谷川岳千倉山，平ヶ岳，越後駒ヶ岳などに分布することを確認した。また巻機山山頂部には，クサツフキバッタから分化したと見なされる仮称マキハタフキバッタ（長島1988）が生息しているが，種としての独立性については今後さらに検討が必要である。

#### 5. *Chorthippus*属（亜高山性のヒナバッタ類）

新潟県の山岳地帯には亜高山性のヒナバッタが生息している。ホンシュウクモマヒナバッタ，その亜種であるシロウマミヤマヒナバッタ（馬場1968）などが分布（山崎1968）しており，種分化の観点から興味深いバッタ類である。

#### 6. *Oxya*属 イナゴ類

新潟県にはコバナイナゴとハネナガイナゴの2種が知られている。両種はかつて水田地帯に大発生していたが，農薬散布開始に伴い激減し，しばらくの間は内陸部の山間地水田付近にしか見

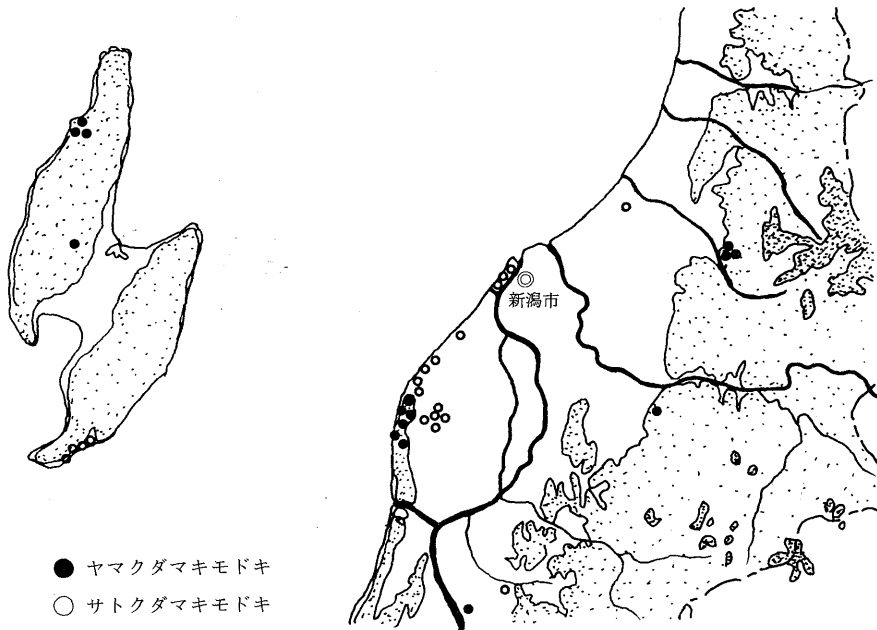


図1. 新潟県中央部におけるクダマキモドキ類の分布

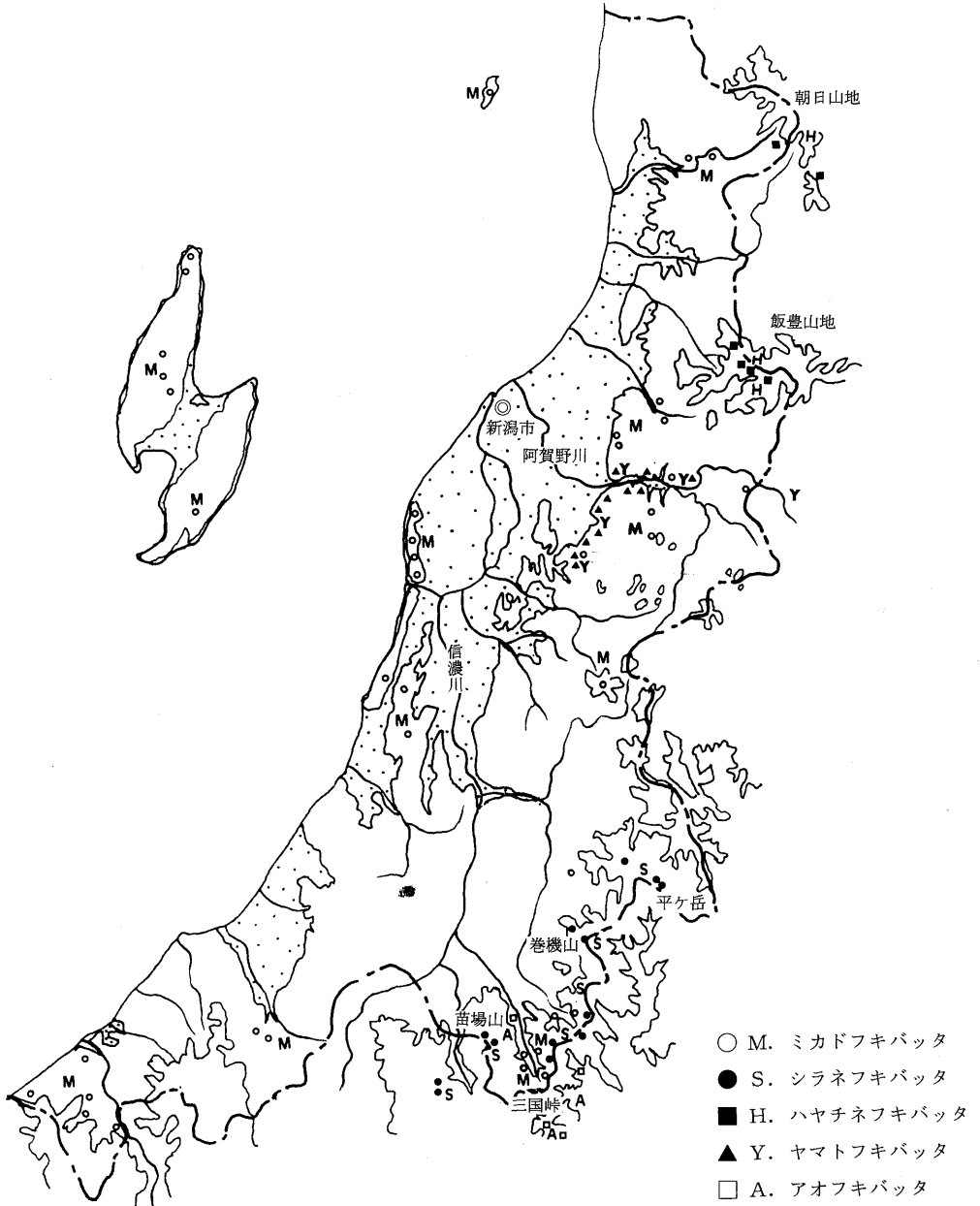


図2. 新潟県におけるフキバッタ類の分布

られなくなっていた。しかし近年（1985），各地の平野部水田に発生が見られるようになり，新潟市街地でも観察されるようになった。両種の再発生の要因や動態に注目したい。また両種の他に，本属の別種（*Oxya* sp.）の記録を山崎ら（1964）が記載している。

#### 7. *Tettigonia orientalis*. complex (ヤブキリ類)

本種は大型の昆虫で県内の山地に広く分布している。筆者は西蒲原郡弥彦村の山麓で，スキの藪で多数が交尾し，また太い木に登りニイニイゼミを捕食するのを観察した。本種のなかには体色が黒みを帯びる個体が観察される。ヤブキリは古川（1967）によって2亜種が記載されているが，近年，鳴き声の違いからさらに数種類に区別した記載（小林1981）があるが，本県には何

れに該当する種類が分布するか今後調査する必要がある。

#### 8. *Hexacentrus japonicus*. ウマオイムシ

ウマオイは鳴き声の違いからハタケノウマオイ（早声型シィチョ、ショチョ）とハヤシノウマオイ（長声型、ズーイッチョ）の2種に区別されている。両種は鳴き声によって明瞭に区別されるが、形態的には酷似し標本による区別は困難とされている。しかし、雄の前翅発音器の背面にある1本の翅脈上に黒褐色の色素が沈着して前方に向かって黒い針状の尖る傾向のあるものがハヤシノウマオイで、尖らないものがハタケノウマオイとする知見（杉本1981）がある。新潟県で採集されたウマオイ（佐渡島産）をハヤシノウマオイとした記載（直翅類研究グループ1983）があるが、筆者が角田山麓で採集した個体はハタケノウマオイ的な形態を有し、松郷屋の部落でハタケノウマオイ的鳴き声に似てせわしく鳴く個体を観察している。

#### 9. *Celes skalozubovi akitanus*. アカハネバツタ

後翅が赤い特徴を有するバツタであるが、県内でこれまでに採集記録された個体数は少なく、山口（1965）の柏崎市新道（稀、雄採集）、山崎ら（1964）の村上市瀬波（1963.9.1—28.1♂5♀♀）、西蒲原郡巻町（1963.8.11.1♀）があるに過ぎない。本種は定着砂丘の灌木のまばらに生える砂丘や草地で採集される（山崎ら）。

#### 10. *Pseudorhynchus japonicus*. カヤキリ

新潟県に生息するバツタ目昆虫中最大の体長を有する大型種である。弥彦・角田山麓の海岸沿い、国上山山中、巻町竹野町の山麓のススキやヨシの群落中に生息している。本種は日中でも良く鳴き、鳴き声はニイニイゼミに似ていて、かなり離れた所からも聞こえる。カヤキリの体色は普通薄緑色であるが、稀に黄褐色の個体が観察される。本種の日本海側における北限は新潟県（角田山麓）と思われる。

#### 11. *Anoplophilus acuticercus*. クチキウマ

クチキウマ属は近年多数の新種が認め（石川1989）られている。新潟県ではクチキウマ（図8）が、妙高村関温泉（1972.10.11, 1♀）、蓮華温泉（1977.7.29, 1♂）、三国峠（1986.9.13, 1♀）など県境の高地で採集されているが、その採集個体は少ない。クチキウマ類は、森林の中で立ち枯れた朽木や林床の笹の葉上に生息するといわれている。今後本県でも別種が採集される可能性がある。

#### 12. *Parapteronemobius sazanami*. ナギサスズ（図5）

本種は暖地系の昆虫で、翅が退化して無くなった小型のコオロギ類である。本種の日本海側における採集記録の北限は粟島～村上市海岸（馬下）である。近年筆者は、越後七浦海岸（シーサイドライン）沿いに点在する岩石海岸（西蒲原郡巻町五ヶ浜小浜、岩室村間瀬田之浦、獅子ヶ鼻、米水ヶ浦）で、小児の頭大の礫堆積中に多数生息することを確認した。主な生息場所は海水から僅かに離れた礫下であるが、汀線より10数メートル離れた所でも観察される。本種は10月頃になると、腹端部に小さな白い精球をつけた雌雄個体が観察される。産卵場所や孵化期は未だ不明。

#### 13. Meconematidae 科（ヒメツユムシ類）

本科に属する種類は小型の昆虫で、雑木や低木の樹冠、草地に生息する。わが国では30種近くの種が認められ、つぎつぎと命名記載がなされている。現在新潟県では長翅系2種、短翅系2種が採集記録されているが、今後さらに別種が追加されるものと思われる。

#### 14. *Calyptotrypus hibinonis*. アオマツムシ

アオマツムシは最近全国的に分布を広げているが、新潟県では上越地方（大野1986）、柏崎地方（山口1965）の情報がある。本種は植木の搬入に伴い分布域を広げているので、やがて県内各地でも見られるようになると思われる。従ってその動態に注意する必要がある。



15. *Oecanthus* 属 (カンタン類)

新潟県には山地の草地に生息するカンタンと海岸の草地に生息するヒロパネカンタン (かつてタイワンカンタンとされていた種) の2種が生息している。カンタンは海岸から海拔1000mを越える三国峠でも観察される。ヨモギやクズが生える草地に多い。弥彦山の山頂付近では体色が黒味を帯びる個体が採集される。これまでヒロパネカンタンの日本海側における北限は新潟県と見なされていた (日浦1977) が, 山形県 (白畑・黒沢1972) の記録があり, また近年小林 (1989) は秋田県金浦町で本種の鳴き声と姿を見たと報じている。

16. *Mecopoda nipponensis*. クツワムシ

クツワムシは暖地系の大型昆虫である。県内にける本種の記録としては中村 (中頸城郡大潟町, 刈羽郡山本1925), 山口 (柏崎市鱒石川, 中通1965), 馬場 (柏崎市荒浜1968) のものがある。本種の日本海側における北限は新潟県 (柏崎市一刈羽村海岸部) と思われる。

17. *Scleropterus* sp. クマスズムシ

本種は暖地系の小型の昆虫である。樋熊 (1969) は三島郡寺泊で採集したことを報じ, その後樋熊と長島 (1976.10.9) は西蒲原郡岩室村間瀬の汀線に近いサツマイモ畑で多数採集した。本種の日本海側における北限は新潟県 (角田・弥彦山麓海岸) と思われる。本種のこれまでの学名に *S. coriaceus* が当てられてきたが, これは別種とみなされている (日浦1977)。

18. *Euconocephalus thunbergi*. クビキリギス

本種はこれまで刈羽郡小国, 上越地方, 柏崎方面で生息が知られていたが, 近年新潟市堀割で採集 (佐藤秀男 1982.18.2.1 ♂) された。本種は成虫で越冬する。本種の日本海側における採集記録の北限は新潟県 (新潟平野) である。

19. *Acrydium longulum*. オオヒシバッタ

本種の記録としては, 粟島 (樋熊1964) と尾瀬 (福原1954) のものがある。本種は東北・中部の高山や山地に分布し, 岩や石の間に住んでいる (古川1967)。

## 20. Gryllidae科 (コオロギ類)

本科に属するコオロギ類は, 種名の再検討が行われているものが多く, 今後学名の変更に注意する必要がある。リストには加えなかったが, 鳴き声調査などから, 暖地系のナツノツツレサセコオロギ, タンボコオロギ, またオオオカメコオロギなどが本県にも生息しているように思われるので今後の採集調査に期待したい。

## おわりに

新潟県のバッタ目に属する昆虫は, これまでの調査によりかなり明らかになってきた。しかも, 日本海側における北限種或いはそれに近い種が多く (37種前後) みられるので興味深い。今後新潟県におけるバッタ目昆虫の研究は, 調査の不十分なコオロギ類, クチキウマ類, ヒメツユムシ類の採集, 再分類が行われているカマドウマ類, ヒシバッタ類などの形態観察に力を注ぐと共に, 分布上注目すべき種に焦点を絞り, それらの生態・生活史の研究, 亜高山性のヒナバッタ類やフキバッタ類に見られる種分化, オオクサキリ, カスミササキリの隔離分布などの諸問題に取り組まねばならない。

稿を閉じるにあたり, これまでクサツフキバッタ, ハヤチネフキバッタの採集にご協力戴いた新潟山岳会の高橋一郎氏, 阿部信一氏, クチキウマ, コロギスを提供くださった桜沢英郎氏, クチキウマの写真を提供くださった林克久氏, 松之山地区の採集調査に便宜を計って下さった小林和博氏, ヤマクダマキモドキを提供下さった佐藤力夫博士, クマスズムシやヒナカマキリなどの生息地をお聞かせ戴いた越佐昆虫同好会会長樋熊清治先生に厚くお礼を申し上げる。

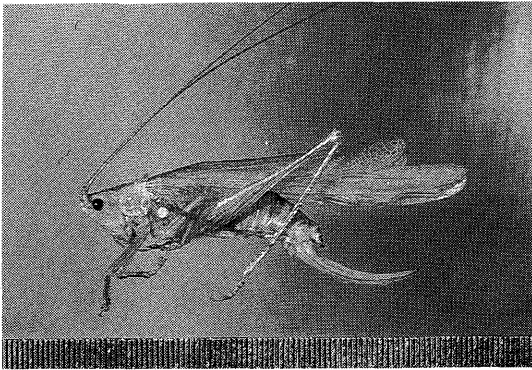


図 3. カスミササキリ (仮名) 雌  
南魚沼郡塩沢町清水産

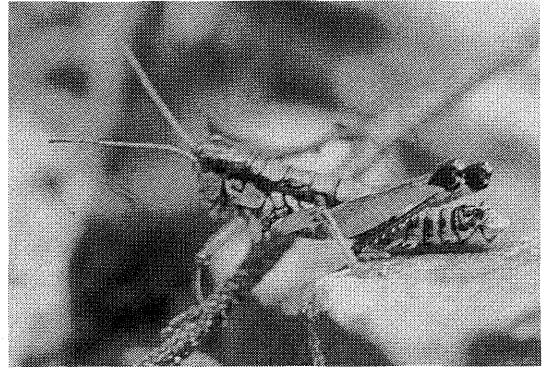


図 6. クサツフキバッタ (仮名) 雄  
南魚沼郡湯沢町三国山産

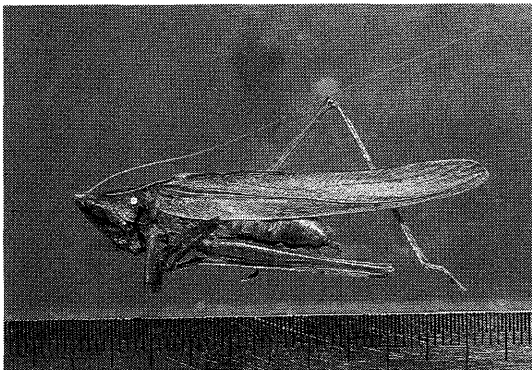


図 4. オオクサキリ雄  
西蒲原郡巻町越前浜産

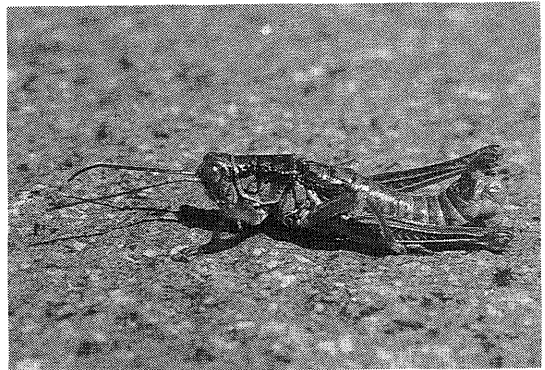


図 7. ハヤチネフキバッタ雄  
北蒲原郡飯豊山門内岳産

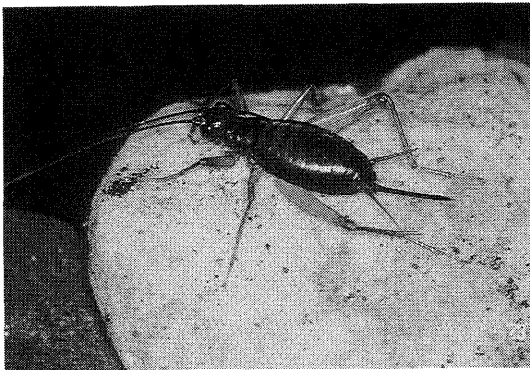


図 5. ナギサズ (ウミコオロギ) 雌  
西蒲原郡巻町小浜産

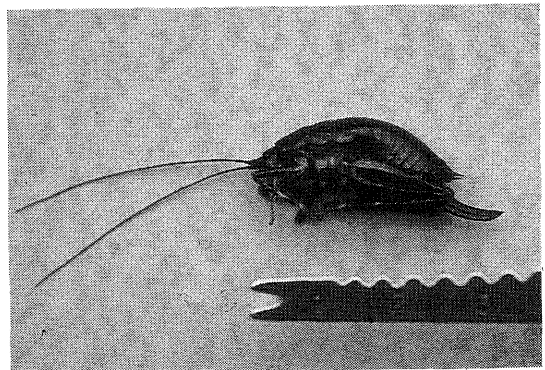


図 8. クチキウマ 雌  
南魚沼郡湯沢町三国峠産

## 参考文献（年代順）

- 小田島允武(文化一文政の間, 出版年不明)越後野誌外集. 卷二十六(虫の一).
- 梶谷才吉(1911)刈羽小国地方昆虫目録. (第一回)新潟県博物調査, 越佐教育雑誌第232号付録: 111-112.
- 坂根抵次郎(1911)上越地方昆虫目録. (第二回)新潟県博物調査, 越佐教育雑誌第232号付録: 122.
- 中村正雄(1917)新潟県所産直翅類の目録. 名和靖氏遷曆記念寄贈論文集: 77—82.
- 中村正雄(1925)直翅類. 新潟県天産誌: 580—584. 中野財団, 新潟
- 新潟県高等学校博物同好会(1936)佐渡島産昆虫総括. 自然研究, (5): 64—82.
- 福原植男(1954)尾瀬の直翅類. 尾瀬ヶ原総合学術調査団研究報告: 773—776.
- 山崎柄根・馬場金太郎・伊丹英雄(1964)新潟県のバッタ類. 新潟県の昆虫, VIII: 27—32.
- 樋熊清治(1964)生物地理学的に見た粟島の昆虫相. 長岡市立科学博物館研究報告(3): 51—53.
- 馬場金太郎(1964)昆虫よもやま9—奈落にうごめく虫一. 新潟日報新聞(昭和39年11月18日版)
- 山口弘人(1965)柏崎地方の直翅系昆虫概観. 新潟県生物教育研究会誌, (2): 64—68.
- 大町文衛(1966)新潟県のコオロギ上科目録. 越佐昆虫同好会々報, 復刊1(1): 2—7.
- 古川晴男(1967)直翅目. 原色日本百科図鑑(古川晴男・奥谷禎一・須田孫七・長谷川仁・矢島稔・北野日出男著): 254—281. 集英社.
- 馬場金太郎(1968)シロウマミヤマヒナバッタの発育・越佐昆虫同好会々報, 復刊3(1): 18.
- Yamasaki, T.(1968)Systematic analysis of the alpine grasshoppers of the genus *Chorthippus* in Honshu, the main island of Japan. *Sci. Rep. Tokyo Kyoiku Daigaku, Sec. B*, 13(201): 229—263, 3 pls.
- 馬場金太郎(1968)クツワムシ. 越佐昆虫同好会々報, 復刊3(1): 表紙.
- 小山洋一(1968)長岡のカマドウマとコロギス. 越佐昆虫同好会々報, 復刊2(2): 11.
- 樋熊清治(1969): 寺泊産のクマスズムシ. NKH(長岡市立科学博物館報), (15): 裏表紙
- 白畑孝太郎・黒沢良彦(1970)飯豊連峰の昆虫相. 総合学術調査報告飯豊連峰別刷: 198—199. 山形県総合学術調査会
- 白畑孝太郎・黒沢良彦(1972)鳥海山・飛鳥の昆虫類. 総合学術調査鳥海山・飛鳥別刷: 242—243. 山形県総合学術調査会.
- 白畑孝太郎・黒沢良彦(1975). 出羽三山(月山・湯殿山・羽黒山)・葉山の昆虫類. 総合学術調査報告出羽山(月山・湯殿山・羽黒山)別刷: 254—255. 山形県総合学術調査会
- 長島義介(1976)角田山塊の直翅系昆虫類. 角田山塊の自然: 297—303. 巻町潟東村教育委員会
- 日浦勇(1977)直翅目. 原色日本昆虫図鑑(下)全改訂新版(伊藤修四郎・奥谷禎一・日浦勇編著): 55—81. 保育社
- 野村総合研究所(1978)角田浜地区の陸域生態系基礎調査. 215—225.
- 山崎柄根(1979)新潟県の直翅目について—その研究史と分布記録追加—. 新潟県の昆虫(越佐昆虫同好会々報50号慶祝論文集): 157—162.
- 関矢 敦(1979)五十嵐河川敷に生息する直翅目昆虫の研究. 新潟県立教育センター研究報告, (26): 27—36.
- 河北 均(1979)ヤマクダマキモドキ佐渡島の記録. バッタリギス(9): 116
- 長島義介(1980)アブ・直翅類. 東新潟火力周辺陸生動物調査報告書, : 109—126. 東北電力株式会社
- 樋熊清治(1980): 長岡西山の昆虫. NKH(長岡市立科学博物館報), (37): 3.
- 徳本 洋(1980)北陸地方におけるヤマクダマキモドキとサトクダマキモドキの記録. バッタリギス, (34): 845—847.
- 富永 修(1980)Parapodisma information 8. バッタリギス, (34): 843—844.

- 長島義介(1981)コオロギ・バッタ類. 新潟県昆虫図鑑<上>(本間義治監修):244-294. 新潟日報事業社
- 杉本 武(1981)ウマオイ 2種の相違傾向について(I). バッタリギス, (37):884-885.
- 小林正明(1981)信州の秋に鳴く虫とそのなかま. 信州教育会出版部 264pp.
- 新潟日報(1982)陽気に誘われ 春の珍客. (昭和57年2月19日朝刊)
- 新潟県(1983)動物(昆虫類・両性類編). 新潟県自然環境保全資料策定調査書:49-52.
- 直翅類研究グループ(1983)日本の直翅類. 大阪府立自然史博物館収蔵資料目録, 第15集, 大阪府立自然史博物館 101pp.
- 長島義介(1983)新潟県産キリギリス科目録. 越佐昆虫同好会々報, 復刊56(1):26-33.
- 長島義介(1983)弥彦・角田山麓でコロギスを採集. 越佐昆虫同好会々報, 復刊56:35-36.
- 加納康嗣(1983)日本産直翅目(Orthoptera;Saltatoria)の予備的カタログ(その1). バッタリギス, (54):1627-1640.
- 井上尚武(1984)ササキリsp.(霞ヶ浦周辺の直翅類2). バッタリギス, (58):1833-1838.
- 加納康嗣(1984)カスミササキリ・オオクサキリの産卵. バッタリギス, (61):1965-1969.
- 和田一郎(1984)クサツフキバッタ(仮称)について. バッタリギス, (59):1867-1872.
- 村上地区理科教育センター(1984)村上・岩船の昆虫. 13-22. 新潟.
- 木俣繁・菊地賢治(1985)蔵王連峰の昆虫. 総合学術調査報告蔵王連峰別刷:331. 山形県総合学術調査会
- 加納康嗣(1986)日本産直翅目(Orthoptera;Saltatoria)の予備的カタログ(その2). バッタリギス, (70):81-102.
- 加納康嗣(1986)東北地方とその付近のフキバッタ(1). 東北の自然, 3(15):2-9.
- 加納康嗣(1986)東北地方とその付近のフキバッタ(2). 東北の自然, 6(18):18-21.
- 加納康嗣(1987)日本産直翅目(Orthoptera;Saltatoria)の予備的カタログ(その1・その2)への追加・訂正. バッタリギス, (72):40-46.
- 加納康嗣(1987)日本産直翅目(Orthoptera;Saltatoria)の予備的カタログ(その2)への追加・訂正. バッタリギス, (72):47-50.
- 松浦一郎(1987)ヤブキリ類を整理してみる. バッタリギス, (74):6-8.
- 長島義介(1988)佐渡島の直翅類について. 新潟青陵女子短期大学研究報告, (18):17-26.
- 見附市立理科教育センター(1988)見附の昆虫. その2 バッタ・コオロギ・キリギリス編:53pp.新潟.
- 根来尚, 瀬川哲夫(1988)富山県の直翅類. 富山市科学文化センター研究報告, (12):37-95.
- 井上尚武(1989)雄の形態計測による日本産クサキリ属3種の比較. 茨城県立水戸農業高等学校今紀要, (2):2-11.
- 石川 均(1989)クチキウマに就いて一亜高山性のクチキウマ(2)-. バッタリギス, (82):38-44
- 小林正明(1989)秋田県でヒロバネカンタンの声を聞く. バッタリギス, (84):18.
- 多田内修(1989)バッタ目. 昆虫分類学. (平嶋縞義宏・森本桂・多田内修著):176-194. 川島書店